



学校だより

3月号

平成30年 3月 1日

さいたま市立植竹小学校

〒331-0813 さいたま市北区植竹町2-1

TEL 048-663-7627

FAX 048-663-9885

E-mail uetake-e@saitama-city.ed.jp

児童数 1年124名・2年140名・3年121名・4年134名・5年124名・6年138名・7組17名 計798名

学校教育目標

○すすんでまなぶ子

○たすけあう子

○げんきな子

花を咲かせる

校長 鯨井 幹夫

先月行われたピョンチャン・オリンピックでは、多くの感動をもらいました。冬季五輪史上初の最多メダル獲得をはじめ、2大会連続の金メダルや一人で2つの金メダル、一人で金・銀・銅メダル獲得など、素敵なニュースが次々と飛び込んできました。もちろん、技を極めた美しい演技やパフォーマンス、限界を超えた記録への挑戦、それらの姿に感動を覚えた方も多かったことでしょう。加えて、報道等を通して、選手たちがこれまで歩んできた苦難や、彼らを支えてくれた周囲の方たちとの絆について知り、改めて胸を熱くした次第です。

また、時を同じくして、将棋界にも驚くべきニュースが流れました。中学生棋士、藤井聡太六段の誕生です。15歳6か月での棋戦優勝と六段昇段は、史上最年少記録ということです。特に、準決勝で国民栄誉賞を受賞した羽生善治竜王を破っての快挙であり、その才能と努力には感動すら覚えました。

さて、メダリストも藤井聡太六段も、今回、見事に花を咲かせました。素晴らしい結果を出してくれました。この「花を咲かせる」ためには、困難を乗り越え、不断の努力を重ね、精一杯に取り組む姿勢を貫くことが大切です。私にそのことを教えてくれたのは、『ことばの力』という大岡信のエッセイです。

京都の嵯峨に住む染色家志村ふくみさんの仕事場で話していた折、志村さんがなんとも美しい桜色に染まった糸で織った着物を見せてくれた。そのピンクは、淡いようでいて、しかも燃えるような強さを内に秘め、はなやかでしかも深く落ち着いている色だった。その美しさは目と心を吸いこむように感じられた。

「この色は何から取り出したんですか」「桜からです」と志村さんは答えた。素人の気安さで、私はすぐに桜の花びらを煮詰めて色を取出したものだろうと思った。実際はこれは桜の皮から取出した色なのだった。あの黒っぽいゴツゴツした桜の皮からこの美しいピンクの色が取れるのだという。志村さんは続けてこう教えてくれた。この桜色は、一年中どの季節でも取れるわけではない。桜の花が咲く直前のころ、山の桜の皮をもらってきて染めると、こんな、上気したような、えもいわれぬ色が取出せるのだ、と。

私はその話を聞いて、体が一瞬ゆらぐような不思議な感じにおそわれた。春先、もうまもなく花となって咲き出ようとしている桜の木が、花びらだけでなく、木全体で懸命になって最上のピンクの色になるうとしている姿が、私の脳裏にゆらめいたからである。(『ことばの力』大岡信、花神社1987より抜粋)

桜は、冬の寒さに耐え、春に向けて体全体でピンクになろうとしているのです。花びらのピンクはそのエネルギーと思いの表れなのです。今回メダル獲得や昇段といった結果を出した方々も同じです。見事に「花を咲かせた」という結果だけに目を奪われるのではなく、その結果を出すためにどれだけの「努力」をしてきたのか、困難に出会ったときそれを乗り越えてきた「最後まであきらめない強い気持ち」などにも目を向けていく必要があります。

このことは、子どもたちも同じです。この一年間、一生懸命努力して成長してきました。まだ「花を咲かせる」までいかないかもしれません。あるいは未熟な花であるかもしれません。でも確実に、エネルギーを蓄え大きく膨らんでいることは間違いありません。そのことを大切にして、これからも子どもたちが努力していくその姿を応援していきたいと思えます。

今年度も残すところ一か月になりました。この一年間、子どもたちの成長や活躍だけでなく、瞳を輝かせて挑戦する一生懸命な姿を随所に見ることができました。そんな充実した教育活動を営むことができたのも、日々の活動へのサポートや様々なボランティアを行ってくださった保護者の皆様、地域の皆様のおかげであると深く感謝申し上げます。ありがとうございました。